

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム 野の花 1棟		
所在地	長崎県島原市江里町乙 2346番地1		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

面会時、訪問時において気軽に入りやすい、明るくオープンな雰囲気環境づくりをここがけています。恒例の夏祭りでは地域、家族の方々の協力の下、盛大、賑やかに開催しています。年々と来場観客も増えてきており地域の祭りの一つとして定着しつつあります。また9月にある敬老会では利用者の家族を招待しホテルでの食事会を行っています。終了後は自由参加にて家族との懇親会を実施しており意見交換の場を設けております。また、地域の方々と接点を持てるように、避難訓練、持ちつき、鬼火などイベントを開催し、多くの方々と接点を持てるように心がけています。また小学校との交流も定着しており事業の一環として組み込まれるようになりました。また、法人内でも地域のイベントに参加し、事業所間との交流を深め地域への参加も多くなってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは豊かな自然に囲まれた地区に位置している。敷地内には併設高齢者施設のほか、畑があり利用者が家族と共に楽しむ憩いの場となっている。法人は開設時より地域に根ざした施設を目指し、年を重ねるごとにその活動は島原市全体に及んでいる。グループホーム設立10年目にあたり、職員は年間目標を「初新」と決めた。職員は介護支援者としての初心を忘れず、新たな取り組みに積極的に取り組んでいる。利用者とは過ごす時間を増やし、マンネリ化を払拭し、利用者の行動意欲をかき立てる支援に努めている。畑仕事やパソコンを使っての写真整理、新聞切抜きなど、本人本位に日常生活を楽しめるよう支援している。家族や知人の訪問も多く自由な暮らしの中で、優しさ、幸福感、温かさに包まれ、施設感はなく、グループホームの原点である家庭的な雰囲気がある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム野の花 1棟
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はつくりあげており原点として取り組んでいる。	法人理念をもとに全職員で話し合い年間目標を立てている。今年度は設立10年目にあたり「初新」と決め、初心を忘れず、日々の挨拶やこれまでの業務内容を見直した。更に新しいことに積極的に取り組んでいる。利用者とは過ごす時間が増え、本人本位の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、清掃活動には積極的に参加している。また当ホームのイベント時には、地域への呼びかけを行い、参加される方も多い。	職員は、地域清掃活動や利用者や小学生との交流会、市民体育祭の見学を行っている。事業所の夏祭りや餅つき、鬼火には多くの地域住民が参加しており、地域の一員として交流している。また、中学生や専門学校生の福祉体験受け入れを行っており、お礼の感想文が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、清掃活動は利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み、生活状況を議題の中に取り入れている。会議の議事録はファイル化し職員で回覧している。	年6回奇数月に会議を開催している。利用者状況や行事報告、家族アンケートの結果報告などが行われている。会議の中で参加メンバーから消防に関する意見をもらい、定期的な消防訓練の実施に繋がるなど意見をサービス向上に活かしている。ただし、参加メンバーが揃う回がない。	これまで以上に幅広い意見を得て、サービス向上に活かすためにも、運営推進会議の構成メンバーの再検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との交流は常に多く持ち、協力関係は出来ている。	市担当者や福祉事務所とは事業所の状況報告や不明な点の相談、各種手続きにおいて連携を取っている。職員は行政主催の研修を受講している。事業所は法人が島原地域広域市町村圏組合から受託した「いきがづくり教室」の受付窓口となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日常施錠せず、自由に出入りできる状況にある。身体拘束に関しては、研修、勉強会を通じ、全職員が理解した上で取り組んでいる。	事業所は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年1回県主催の高齢者虐待防止シンポジウムを受講した職員が講師となり勉強会を開いている。言葉の拘束も気付いたらその場で注意し合っている。何度も外出しようとする利用者の思いを検討し、見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外部の勉強会、研修会を通じ、学ぶ機会を設けている。また、職員間の声掛け利用者の観察を密に行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外部の勉強会、研修会を通じ学ぶ機会を設けている。活用に関しては個々の必要性に応じ支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約時に十分な説明を行った後、質疑応答を行っている。家族の理解、納得後同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には話す時間を必ず持ち、状況報告を行い必要があればその都度話し合いの場を設けている。また介護ミーティングにて解決策を見出している。	広報誌を毎月家族へ発送している。職員は家族の訪問時に、挨拶と共に何でも話しやすいよう声かけをしている。電話で対応することもある。家族向けのアンケートを実施したり、敬老会では家族会を行い、意見や思いを汲み上げている。出た意見は職員で業務を見直し、サービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談、親睦会を通じて意見を聞く場を設けている。必要に応じ改善、軌道修正を行っている。	毎月職員会議では、全員が発言しやすい雰囲気を作り、意見や提案を聞いている。管理者は、職員の自己評価を年2回実施し、職員の不安な思いも初期段階で気付けるように心配りしている。職員は利用者との時間を増やすために、業務内容の見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施、法人内外の勉強会にて各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講は、各自の力量に応じて勧めている。受講の際は勤務体制を整え、受ける機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのスポーツ交流、勉強会等の機会を多く持ち、お互いのレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の段階から、本人と何度も面談し意見を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の段階から、家族と何度も面談し意見を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の軽い方が多い為、昔ながらの方法から学び取れるものが多い。状況に応じ教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も常に家族と話し合いながら共に支援していくよう気がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への泊まり、訪問など、本人の希望に応じて職員が同行し、個別の対応もおこなっている。	家族や友人、知人が訪問し、ホーム内で自由に過ごしている。ホームの畑作業やおやつ作りにも声をかけ、家族が参加している。家族の協力を得て、墓参りや自宅への外泊なども希望に沿って支援している。また、利用者が家族や友人に手紙を書く時には個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動等を通じ、利用者間でのコミュニケーションが取れるよう支援している。必要に応じ職員が介入する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会には行くようスタッフには周知させている。家族とも電話などで連絡を取り、継続的な関係を保てるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で本人の希望、意向を組みとり、個々に合った生活ができるよう検討している。	日頃から、利用者一人ひとりとの会話時間を多く持っている。職員は個別に話し掛ける方法に気を遣い、さりげなく利用者の思いを汲み上げている。聞き取った希望はその場で話し合い、思いに沿った支援を行っている。更に個別に記録し、申し送りなどで職員は情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中でその人らしさを考え、現在に至るまでの生活歴も把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常生活の様子観察にて総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を十分に取り入れている。また各利用者の介護計画期間表を事務所に貼り、終了前に家族と相談しながら介護ミーティングを利用し、見直しを行っている。	長期・短期目標を立て、介護ミーティングで職員の気付きを汲み上げている。家族には手紙で計画見直し時期を連絡し、面会時に家族の意見を聞き取っている。作成後、説明を行い同意を得ている。但し、一層深く本人らしい暮らしを支えるためには、一人ひとりをよく知り、職員間のケア統一が必要である。	現在取り組み過程にある、「私の1日の過ごし方シート」作成の実現に期待したい。作成後はシートを活用し、利用者一人ひとりをよく知り、職員間のケア統一に繋げることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろんの事、日誌、申し送り等を通じて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので状況に応じ柔軟に支援する事を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば活用し、安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、各医療機関との連携を図っている。また通院、往診など個々に合った対応を行っている。	利用開始前からのかかりつけ医を継続している。通院は職員が同行支援しており、往診を受ける利用者もいる。受診内容は変更があった場合、家族へ電話で報告しており、職員間では連絡ノートやボードを利用し共有している。夜間緊急時、かかりつけ医との連携も取れており、緊急時マニュアルも作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって健康管理は十分に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡体制は整っている。入院時は随時面会し、関係者との情報交換、相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族、関係者との話し合いの上、方向性を検討している。	事業所は看取りに関する指針を作成しており、本人と家族へ利用開始時に説明している。現在、看護職員の不在等で看取りの体制が整備されていないため、取組んでいないが、医療行為を伴わない看取り支援については、家族・主治医・職員と共に話し合い今後も取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの周知、緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防署立会いの下、地域の方々を含めた避難訓練、通報訓練、模擬消火訓練を実施している。	年2回消防署立会いのもと系列事業所と合同で消防訓練を実施している。内1回は地域合同避難訓練を企画し、通報訓練や消防署の講話等が行われている。事業所は年間計画を立て、夜間想定や地震災害等毎月防災訓練を行っている。出火場所をあらかじめ指定せずあらゆる状況でも対応できるよう訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心がけている。プライバシー、守秘義務は守る事を徹底している。	利用者に尊厳を持って対応するよう、職員は利用者の呼び方や話し方に注意を払っている。トイレ誘導時や失敗時の対応などの羞恥心にも配慮している。個人情報事務所で管理し、職員は守秘義務を周知徹底しており、広報誌やインターネット上の写真使用同意書も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の方にも毎日の生活の中で、思考、希望などを理解し、自分らしさの支援ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを基本に希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者に関しては、イベント時、外出時など希望に応じて化粧をしている。月に一度美容師による訪問カットサービスを行っているが希望があれば行きつけ美容室にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けに関しては、出来る範囲内でのお手伝いをお願いしている。食事の際は職員も一緒に食卓につき。会話を取りながら楽しく摂取できる状況を作っている。	配食業者と契約しているが、週1回は職員が調理している。嚥下にあわせて食事を盛りつけ、見た目からもおいしさを感じるよう工夫している。職員は利用者と会話を楽しみながら食事しており、利用者は配膳や下膳などできる範囲で手伝っている。季節行事にあわせて献立、ホーム庭で弁当を食べるなど食事を楽しむ工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を摂る事で状態観察を行っている。食事以外にもお茶タイムを設け、脱水には十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。		

グループホーム野の花 1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ、リハパンの方も、日中はショーツ、パット対応にて定期的な排泄介助を行い、自立支援に向けたケアを行っている。	職員はトイレでの座位排泄支援をしており、利用者の状況によっては、職員2人で介助している。介護ミーティングで職員は利用者の排泄支援状況を把握している。オムツ使用の利用者がトイレで排泄できるまでに改善したり、他の利用者もパッド類の使用頻度やサイズ変更などに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、アクティビティへの参加等で適度な運動量を保っている。また水分補給に関しても、夏場はかき氷などを提供し、摂りやすい工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝のバイタル測定時に希望者を募り、希望に応じて対応している。	各ユニットは毎日午後から入浴準備をしており、利用者の希望に沿って、無理強いはいしない。ホームの個浴介助が難しくなった場合は、併設デイサービスのリフト浴を使用することができる。脱衣場の温度管理に努め、時には温泉に出かけるなど利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に、状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的、用法を把握し、変更の際は副作用にも十分気をつけ、症状変化があった場合は主治医への相談を行っている。また服薬フローチャートを作成し、個々にあった服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活歴、力量に応じて役割分担を決めている。また、外出、レクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、敏速に対応できるよう心掛けているが、業務の関係で即対応できない場合もある。	天候や体調に気を配りながら、ホーム庭や周辺を散歩している。気分転換や個別の希望に応じてドライブにも出掛けている。車椅子が乗れるリフト車があり、車椅子の利用者も外出している。季節に合わせた外出支援を企画し、温泉や遠出ドライブに出掛けている。	

グループホーム野の花 1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族に相談のもと、力量に応じ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由。希望があれば代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花等にて、明るく家庭的な空間を出すよう心掛けている。	玄関は緩やかなスロープがあり、職員と利用者を作る季節の野の花を使った飾付けが、来訪者を歓迎している。各ユニットの畳部屋には図書室を設け、コタツやテーブルを置き、利用者や家族が自由に寛ぐスペースとなっている。リビングの採光は明るく、生活音も穏やかである。午前中、清掃・換気し、快適な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間が保てている。また共同空間		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活空間を維持する為にも、家具、生活用品の持ち込みは自由としている。	利用者は馴染みの物を自由に持ち込めるため、仏壇や調度類、趣味のパソコンなど各自特徴のある居室となっている。ベッドや布団も利用者の希望や立位の状況に応じて検討し対応している。午前中清掃・換気を行い、空調も職員が利用者の好みに合わせており、心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意し、自立して生活が送れるような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム 野の花 2棟		
所在地	長崎県島原市江里町乙 2346番地1		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

面会時、訪問時において気軽に出入りしやすい、明るくオープンな雰囲気環境づくりをここがけています。恒例の夏祭りでは地域、家族の方々の協力の下、盛大、賑やかに開催しています。年々と来場観客も増えてきており地域の祭りの一つとして定着しつつあります。また9月にある敬老会では利用者の家族を招待しホテルでの食事会を行っています。終了後は自由参加にて家族との懇親会を実施しており意見交換の場を設けております。また、地域の方々と接点を持てるように、避難訓練、持ちつき、鬼火などイベントを開催し、多くの方々と接点を持てるように心がけています。また小学校との交流も定着しており事業の一環として組み込まれるようになりました。また、法人内でも地域のイベントに参加し、事業所間との交流を深め地域への参加も多くなってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はつくりあげており原点として取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、清掃活動には積極的に参加している。また当ホームのイベント時には、地域への呼びかけを行い、参加される方も多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、清掃活動は利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み、生活状況を議題の中に取り入れている。会議の議事録はファイル化し職員で回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との交流は常に多く持ち、協力関係は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日常施錠せず、自由に出入りできる状況にある。身体拘束に関しては、研修、勉強会を通じ、全職員が理解した上で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外部の勉強会、研修会を通じ、学ぶ機会を設けている。また、職員間の声掛け利用者の観察を密に行い、防止に努めている。		

グループホーム野の花 2棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外部の勉強会、研修会を通じ学ぶ機会を設けている。活用に関しては個々の必要性に応じ支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約時に十分な説明を行った後、質疑応答を行っている。家族の理解、納得後同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には話す時間を必ず持ち、状況報告を行い必要があればその都度話し合いの場を設けている。また介護ミーティングにて解決策を見出している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談、親睦会を通じて意見を聞く場を設けている。必要に応じ改善、軌道修正を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施、法人内外の勉強会にて各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講は、各自の力量に応じて勧めている。受講の際は勤務体制を整え、受ける機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのスポーツ交流、勉強会等の機会を多く持ち、お互いのレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の段階から、本人と何度も面談し意見を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の段階から、家族と何度も面談し意見を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の軽い方が多い為、昔ながらの方法から学び取れるものが多い。状況に応じ教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も常に家族と話し合いながら共に支援していくよう気がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への泊まり、訪問など、本人の希望に応じて職員が同行し、個別の対応もおこなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動等を通じ、利用者間でのコミュニケーションが取れるよう支援している。必要に応じ職員が介入する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会には行くようスタッフには周知させている。家族とも電話などで連絡を取り、継続的な関係を保てるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で本人の希望、意向を組みとり、個々に合った生活ができるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中でその人らしさを考え、現在に至るまでの生活歴も把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常生活の様子観察にて総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を十分に取り入れている。また各利用者の介護計画期間表を事務所に貼り、終了前に家族と相談しながら介護ミーティングを利用し、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろんの事、日誌、申し送り等を通じて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので状況に応じ柔軟に支援する事を心がけている。		

グループホーム野の花 2棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば活用し、安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、各医療機関との連携を図っている。また通院、往診など個々に合った対応を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって健康管理は十分に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡体制は整っている。入院時は随時面会し、関係者との情報交換、相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族、関係者との話し合いの上、方向性を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの周知、緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防署立会いの下、地域の方々を含めた避難訓練、通報訓練、模擬消火訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心がけている。プライバシー、守秘義務は守る事を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の方にも毎日の生活の中で、思考、希望などを理解し、自分らしさの支援ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを基本に希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者に関しては、イベント時、外出時など希望に応じて化粧をしている。月に一度美容師による訪問カットサービスを行っているが希望があれば行きつけ美容室にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けに関しては、出来る範囲内でのお手伝いをお願いしている。食事の際は職員も一緒に食卓に付き。会話を取りながら楽しく摂取できる状況を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を摂る事で状態観察を行っている。食事以外にもお茶タイムを設け、脱水には十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。		

グループホーム野の花 2棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ、リハパンの方も、日中はショーツ、パット対応にて定期的な排泄介助を行い、自立支援に向けたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、アクティビティへの参加等で適度な運動量を保っている。また水分補給に関しても、夏場はかき氷などを提供し、摂りやすい工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝のバイタル測定時に希望者を募り、希望に応じて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に、状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的、用法を把握し、変更の際は副作用にも十分気をつけ、症状変化があった場合は主治医への相談を行っている。また服薬フローチャートを作成し、個々にあった服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活歴、力量に応じて役割分担を決めている。また、外出、レクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、敏速に対応できるよう心掛けているが、業務の関係で即対応できない場合もある。		

グループホーム野の花 2棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族に相談のもと、力量に応じ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由。希望があれば代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花等にて、明るく家庭的な空間を出すよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間が保てている。また共同空間		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活空間を維持する為にも、家具、生活用品の持ち込みは自由としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意し、自立して生活が送れるような工夫をしている。		